

子どもたちの「生きる力」を育むために

Action (アクション)

～地域全体で子どもたちを支え、まちを元気にする一歩を踏み出そう～

第27号

令和4年9月
岡山教育事務所



成功する「熟議」のヒケツについて安田CSマイスターに聞いてみた

熟議とは 多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話のこと。様々な立場の関係者が一つのテーブルにつくことで、新しいアイデアや考え方が生まれます。【Action第4号・第22号も参考】

Q1 「熟議（じゅくぎ）」はどんなふうに進めると上手くいきますか？



はじめに「なぜ、熟議をするのか」という**目的を確認**すること。次に話合いの「**3つの約束**」を確認すること。そうすることで**ゴールイメージをもって、みんなが安心して話ができますよ。**【熟議は目的でなく手段】

3つの約束

- 1 参加者はみんな平等
- 2 互いの意見を尊重
- 3 参加者の秘密を守る



1 テーマ設定

地域の自慢や誇りに思うことなどを話して、ウォーミングアップができれば、「学校と地域でどんな子どもを育てていきたいか」「子どもを取り巻く学校や地域の課題」等、子どものことを中心にすると活発な熟議になりますよ。

Q2 どうすれば、活発な話合いになりますか？



2 作戦会議

今、どんなことを話し合いたいと思っているか、教職員や地域の方の声を聞くこと、今なら、「防災」や「部活動」など、当事者意識をもって話し合えると、活発な熟議になりますよ。



CSマイスター
安田隆人氏

3 人間関係

日頃から、話し合う場をしっかりとつくること。話し合う時間を通じて、人間関係が深まっていきます。お互いに無理なお願いもできるようになってきますよ。

場の工夫

岡山市立高島公民館主催講座



〈参加者の声〉
公民館が主催することで、多くの地域住民が参加しやすい。(地域住民)
学校も講師や場所の準備を公民館がしてくれるのはありがたい。(教職員)

テーマの工夫

防災（避難場所・ルート）



学校が作成している学校防災マニュアルの津波避難計画に関して、より良い避難場所・避難ルートについて、地図をもとに話し合った。(浅口市立寄島小)

今回は、「熟議」を中心に紹介しました。表記のような取組が管内各市町で実施されています。一部ではありますが、岡山教育事務所のFacebookで紹介しています。是非、ご覧ください。

